



CONTENTS

●ヤマトグループTOPICS

●トップインタビュー

「**運送業の経営課題を含めた課題解決型ソリューションで整備業界を変革する**」

ヤマトオートワークス株式会社 代表取締役社長 佐々木 敬史郎

●ヤマト福祉財団「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」活動報告 ● 新着情報



ヤマトグループTOPICS

ヤマトグループ各社、各地域、環境への取り組み、今後の予定などを「一行ニュース」でお知らせします。

ヤマト運輸

- ・ カニやヒラメが翌朝アジアに。官民一体による「道産品の輸出支援」を発表(北海道・4月24日)
- ・ デンソー他4社と「低炭素都市構造プロジェクト」の実証実験を開始(愛知県豊田市・4月～)
- ・ 県内初！「手ブラ観光」ができるJR別府駅センターがスタート(大分県・4月26日～)
- ・ 子どもが大好きな「働くクルマ」をイベントで大公開(栃木県5月4日/三重県・5月3日～6日)
- ・ 事故ゼロ達成を願う「安全川柳」カレンダーを作成(四国4県)

ヤマトロジスティクス

- ・ 地元九州の作家・画家が参加する展示会「アソシエイト展」を開催(福岡県・5月8日～22日)
- ・ 全国から匠の技が集結！「第1回フォークリフト技能大会」を開催(東京都・4月21日)

ヤマトフィナンシャル

- ・ 美しい田園風景の保全を目指して。農家と飲食店を結ぶ「地産地消実験」を市と連携して開始(埼玉県越谷市)
- ・ 待たない。混まない。「離島行き乗船券」ネットで好評販売中(長崎市/佐世保市)
- ・ 「定期難民」を救え。バス・市電の定期券を受注・宅配・決済する新たな取り組みをスタート(北海道函館市)
- ・ コンビニ決済導入で「大腸癌検査受診者」が大幅増。地域医療活性化と予防医療の普及に貢献(島根県出雲市)

ヤマトシステム開発

- ・ オフィスに行列！障がい者福祉施設による「自主生産食品販売会」を開催(東京都江東区・5月22日～25日)

ヤマトホームコンビニエンス

- ・ のべ4,500人が集結。「仮設住宅の家電搬入」作業で日本赤十字社と協力(福島県)
- ・ 被災3県の産品が購入できる通販「がんばろう！東北」。3月末までに10万9,000個を販売。
- ・ 今夏の節電対策家電も揃う。被災3県を回る「家電出張販売」を今年も開催(宮城県・4月～)
- ・ 外出せずに育児に専念。「ベビー用品レンタル&買い取り」サービススタート(愛媛県)

ヤマトオートワークス

- ・ 「ひとつ上の走行へ」タイヤの調達・交換までを一括管理するサービスを開始
- ・ 匠を育てる「テレビ会議研修制度」を導入。全国12か所・100名でエンジニアの同時研修が可能に



トップインタビュー

ヤマトオートワークス株式会社 代表取締役社長 佐々木 敬史郎

「運送業の経営課題を含めた課題解決型ソリューションで整備業界を変革する」

運送業界はこれからますます淘汰の時代を迎えます。モーダルシフトなど物流の効率化、環境対策、小口少量輸送というように、業界を取り巻く環境は確実に変化しています。通販など生活領域への更なる拡大により、消費者に近い末端流通には多頻度小口で対応しなくてはなりません。

例えばコンビニやスーパーにおけるコールドチェーン。車両には定温・低温輸送が可能な仕様が要求されています。それと同時に、管理や整備もこれまでのようにはいきません。大変ですが、新たなニーズが生まれています。

ヤマトオートワークスは、ヤマトグループの車両整備部門から独立した会社です。今では車両整備にとどまらず経営課題を含めた課題解決型のソリューションによって売り上げの半分をグループ外で稼いでいます。

私たちはそんな自分たちの取り組みを通じて業界を変えていきたいと考えています。キーワードは3つです。匠を育てる、稼働を止めない、そして経営の課題を解決する、この3つです。



匠を育てる

車はどれだけデジタル化されても、人の手を介するアナログ部分は最後まで残ります。すべてに優先する安全・安心を最後に担うのは一人ひとりの社員です。技術の向上はもちろん、使命感を持った社員を一人でも多く育てること。これは私たちの社会的な使命でもあります。

そのため常日頃から実地だけでなくテレビ会議システムを利用した講習会を開催するなど技術と意識の向上に取り組んでいます。加えて職人を育てるためのマイスター制度を設けています。中には、お客様のトラックの音を聞いただけでどこ部分が悪いとか自分の車と同じように分かる者もいますし、あるバス会社からは整備の度に指名される社員もいるくらいです。

稼働を止めない

ヤマトオートワークスにあって他社にはないもの。そのひとつが24時間365日稼働を止めない整備。運送会社のトラックのうち夜は7割ものトラックが稼働せずただ放置されています。そのあいだに整備することで、昼に稼働するトラックを止める必要がない。

つまり、稼働を止めないことによって売上げがあがる。年間多額な保険代がかかるスペア車が不要になるなど余分なコストの削減にもつながります。もうひとつ、稼働を止めない整備を支えるための重要な仕組みがあります。効率と働きやすさを追求した新しい整備工場「スーパーワークス」です。工場のレイアウトや整備機器、照明、空調といったあらゆる物が、トラック・バスの整備品質・効率を向上させるために工夫が施されています。今後も、お客様の稼働を止めない整備を追求していけるよう新たなアイデアを注入していきます。





「12か月定額払い」で経営課題をも解決する

トラック1台の整備は、部品やオイルの交換、タイヤ交換など整備箇所が多岐にわたり、それぞれに専門の業者が必要とされています。私たちはお客様のトラックの状態を“見える化”し、ひとつひとつの車両の状態に合わせた最適な整備方法はもちろん、車両全体の管理など一切合切をワンストップで提供します。



その中には運送会社の経営に直結する資金繰りの問題を解決するためのソリューションもあります。2年前からはじめた「12か月定額払い」サービスです。運送会社の多くが年1回の車検に合わせて修理をするなど、収入は変わらないのにある特定の月だけコストが大きくなることで資金繰りが圧迫されるという構造的な問題を抱えています。ヤマトオートワークスではトラックの正確な診断技術とグループの持つIT・LT(ロジスティクステクノロジー)・FT(フィナンシャルテクノロジー)を組み合わせることで車両管理費を含めた経営コストの支払いを見える化。運送会社は月々の資金繰りに追われることなく先の見通しを持って事業に専念することが可能になりました。

インフラとしての社会的使命のために

こうした取り組みができるのはヤマトオートワークスだけです。

なぜなら私たちは整備のプロフェッショナルであると同時にヤマトグループの一員でもあるからです。グループには金融会社、情報システム会社、人材教育会社などさまざまな専門機能を持った会社があります。

たとえば大震災のとき。一日でも早く被災地に支援物資を届けたい。でも車両が足りない。燃料がない。そんなときでもヤマトグループなら日本中から車と燃料を集め幹線道路以外のネットワークを使って避難所の一人ひとりに支援物資を届けることができた。

これは私たちの誇りです。と同時に社会インフラとしてのトラック事業者の価値を再認識し、ヤマトグループ、ヤマトオートワークスの社会的使命を新たにしたい機会でもありました。

幹線物流の需要は減ってもトラックやバスが重要な社会インフラの一部であり続けることに変わりはありません。私たちには、安心・安全のインフラを支えるためにまだまだやるべきことがたくさんある、そう信じています。

【ご報告】「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」活動

◆ 「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」 第5次助成先が決定

宅急便1個につき10円を被災地の生活基盤と水産業・農業の再生資金として寄付する活動を進めています。4月17日に第5次助成先を決定しました。第5次助成は、ヤマトグループの「宅急便一個につき10円の寄付」が3月末で終了したことを受け、最後の大型助成となりました。

今回、地域の雇用を創出しながら、生産から加工・販売までの6次産業化をめざす「いわて三陸 夢あふれる漁業モデル創生プロジェクト」や福島県田村郡小野町の公立小野町地方総合病院の復旧や病棟の再建を目指す「公立小野町地方総合病院 整備事業」など、計7件に総額36億8,600万円を助成します。

昨年8月に第1次の助成先を決定以降、第5次までの助成総額は142億6,600万円となりました。ヤマト福祉財団では、今後もヤマトグループとの連携を図りながら、持続的な復興・再生支援に取り組んでまいります。

「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」サイト

URL: http://www.yamato-hd.co.jp/information/info/contribution_1104.html



新着情報

【ヤマト運輸】 グローバル化さらに一步前へ！多言語ウェブサイトを開発

英語HPがリニューアルし、新しく中国語HPができました。日本国内に進出してきた企業や訪日外国人客からの問い合わせが、年々急増しています。「宅急便」というだけで分かる日本人と違い、時間帯お届けや空港からホテルへの発送ができるというだけで驚かれることもあります。海外にはないきめ細かなサービスを提供する宅急便がイチから分かるページを新しく作りました。

また、中国語HPは、主に中国大陸で使われている簡体字版と香港や台湾で使われている繁体字版の2種類を公開。その他、国際宅急便や国際引越など、ヤマトグループのネットワークを活用した海外向けサービスも紹介しています。

英語 <http://www.kuronekoyamato.co.jp/en/>
フリーダイヤル 0120-17-9625(午前9時～午後6時・年中無休)

中国語(簡体字) <http://www.kuronekoyamato.co.jp/scn/>

中国語(繁体字) <http://www.kuronekoyamato.co.jp/tcn/>

フリーダイヤル 0120-22-9625(午前9時～午後6時・年中無休)



【ヤマトキャリアサービス】 Yahoo!ショッピング向け 通販アプリ生成サービスの提供を開始

サイト内に掲載している商品情報からスマートフォン・タブレット端末用の通販アプリを自動生成するサービス「タッチパネルECアプリYahoo!ショッピング版」の提供を開始しました。更新された情報を自動で取得するため、出店者がアプリ側の情報を更新する必要がなく、最短10日でアプリの配信が可能です。

2月には、楽天市場向けにも提供を開始しており、国内2大ショッピングモール(対象:約58,000店舗)に対応しました。お昼のランチタイムや就寝前など、インターネットショッピングがますます手軽で簡単に楽しめるようになります。



【ヤマトシステム開発】 流通・飲食業者の資材・消耗品のコストを削減する流通プラットフォームの提供を開始

スーパーや飲食店の食品トレイ・ラップ・シールなどの資材・消耗品のコスト削減を実現する「消耗品コストダウン流通プラットフォーム」の提供を開始しました。資材・消耗品費は売上の3%～4%に相当し、早期の見直しが急務となっています。煩雑だった受発注の管理を、Webシステムにより購買状況の「見える化」を実現するため、専任者を配置することができない地方の中小スーパーや飲食店でも導入することが可能です。その他、適正価格の診断、資材・消耗品の一括配送、請求一元化サービスを提供。中小スーパーや飲食店の経営をサポートします。